

思い出がよみがえる いつまでもお気に入りの場所



大判焼きやお好み焼き、ソフトクリームなどが食べられる吉田町の「ふじや」は、昔から地元の人たちに愛されてきました。昭和21年にアイスクリームの製造販売からスタートし、駄菓子なども取り扱うようになつて毎日多くの子どもたちで賑わっていたそうです。しかし少子化や時代の流れもあり、だんだんと子どもたちは来なくなりました。店主の濱田 元輝さんは「昔は駄菓子屋など子どもが集まるお店が地域にたくさんありましたが、今は大変少なくなりました」と言います。

現在はお客さんのほとんどが、子どもの頃に買い物をしていた大人たちで、みんな昔からの顔なじみだそうです。そういった常連のお客さんから話を聞いてか、昔ながらの味を求めて市外からお店に足を運んでくれる人も多いそうです。

「年を取ったので、店をいつまで続けられるか不安もありますが、やめないでと言ってくれる地元の人たちがいる限り頑張りたいです。ただし無理はせずに」と濱田さんは笑いながら話します。これからも懐かしい味と思い出の残る大切な場所として、地域を優しく見守り続けます。